

職業系専門学科単独校(農業科、工業科、商業科)の検討の方向性

(1) 農業科(中央農業高校)

	論点	関係者からいただいた主なご意見	検討の方向性(案)
教育内容	○社会の変化や生徒のニーズの多様化への対応	・農業教育は、食糧生産を担う人材を育てるだけでなく、人の豊かさや可能性、地域課題の解決を学ぶという面もある。 ・地域共創やエンパワーメント等、どの類型でも「農業」は取り入れられる。 ・小規模校で農業の学びがあるからこそ、不登校を経験した生徒や特性を持った生徒が学習意欲を向上させることができる。 ・農業協同組合や農業法人などとの連携を深め、実際の社会につながる学びにしてほしい。 ・農業は投資が大きいので、簿記などの経営方法も学んでほしい。 ・農業経営者育成高校の指定を受けていることは、農業者を育てるという分かりやすさがある。 ・スマート農業や6次産業化などへの対応としては、機材はあるがWi-Fiが繋がっていないなど、発展途上である。 ・経営者としては、即戦力の人材が欲しい。中央農業で取得できる資格として、フォークリフトは小型でなく普通のものを取得することや、ドローンなども取得してほしい。 ・北陸3県で、畜産を学べるのは、中央農業だけで価値がある。畜産農家や酪農家の後継者育成の観点からも、畜産を学べることは残してほしい。 ・中央農業高校は北陸で唯一、畜産のGAP*の資格を取得している。 ・愛玩動物に関する学習は、将来の目玉になり得る。	これまで、中央農業高校で行われてきた特色ある教育を継承しつつ、スマート農業技術や環境への配慮など、時代の要請に応えることができる教育内容とする。
将来像	○農業科単独校としての継続可能性 ○生徒の通学の利便性向上	・生徒が減少する中、現在、1学年で40人に満たないが、<u>将来も単独校として設置することは可能なのか。</u> ・<u>中学校からも通学の利便性が悪いことについて指摘があり、利便性がよい場所への移転は検討に値する。</u> ・現在の場所はサル、イノシシ対策のため畑に電気柵が設置されており、また、熊も出没する。そのような対応が教職員の大変な労力となっている。 ・<u>循環型農業をやる環境としては良いが、自分の子どもを通わせるとなると危険性の面で躊躇する部分がある。</u> ・交通の便がよい方が生徒は通いやすいと思うが、現在の中央農業の環境は、県外や都市部にはその環境に価値を感じる人はいると思う。 ・<u>移転する場合は、臭気等の問題があるので牛舎だけは現在の場所に残し、実習はバスで移動する案もある。</u> ・農場は今の場所のままで、バスで通って、半日実習を行う方法もある。 ・全寮制が足枷になる場合もある。<u>寮がなくても、実習は可能。</u> ・他県では、校舎と農場が離れている場合、休日などは、農場等管理のためアルバイトを雇うなどして対応している。	近年の志願者数の減少を踏まえ、公共交通機関の利便性が高く通学しやすい他の県立高校等への移転も視野に検討する。

※GAP (Good Agricultural Practices)

農産物(食品)の安全を確保し、よりよい農業経営を実現するために、農業生産において、食品安全だけでなく、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組み

(2) 工業科（魚津工業高校、富山工業高校、高岡工芸高校、砺波工業高校）

	論点	関係者からいただいた主なご意見	検討の方向性(案)
教育内容	○社会の変化や生徒のニーズの多様化への対応	・多様な経験のために、業界団体からの力をどう借りて、デュアルシステムなどを仕組み化するかが大事。 ・インターンシップの延長線上のような形で、うまくできるのであれば生徒にプラスになる。 ・デュアルシステムについては、<u>教員の役割や負担はどうなるのか、企業とのアンマッチングがあった際にどう対応するのかなど調べる必要がある。</u> ・県外でデュアルシステムを導入している学校においても、受け入れ先企業の不足などが課題に挙げられている。 ・砺波工業高校に建設系のコースが新設されることに伴い、地元企業がフィールドの提供や講師の派遣などを行いバックアップすることを検討している。 ・砺波工業高校では進学コースの設置も含めた学科改編を行い一括募集することとしている。その成果を見て、検討してほしい。 ・高岡工芸高校は、地域を支える工業と伝統産業を支える芸術系等を併せ持つ歴史的な経緯がある。 ・バイオ医薬品産業の振興や専門人材の育成を積極的に進めている県の施策に対応した学びの場の提供をお願いしたい。 ・CG、アニメ、マンガは富山県に産業基盤があるので、これからの職業になり得る。 ・大学との連携などにより、高等教育機関への進学も視野に入れた学習ができるのではないかな。	①地域の企業等と連携したデュアルシステムの導入や、②新たなニーズ（デジタルものづくり、工業デザイン、アニメーション、防災・社会基盤など）への対応、③高等教育機関への進学も視野に入れた教育課程とする。
将来像	○県内4地区での学びの場の確保の必要性 ○機能の集約又は分担の方向性	・地元企業の立場に立てば、<u>県内4地区に工業を学習できる場を設置してほしい。</u> ・建設企業は地域の除雪や災害対応を担っている。その重要な役割の担い手を育成・確保する観点から、<u>県内4地区に学校があることが望ましい。</u> ・複数キャンパス制の導入にあたっては、相乗効果も大切だが、円滑な学校運営や業務量の効率化などについて検討することが大切。 ・普通科併設の土木科や薬業科など分散している工業科は集約できるのでは。 ・これまでは薬業科が独立した形になっていたが、製造業でもDX化が進むなど現在の流れを考えると、機械、電気など工業系の他の分野と連携できる形がよい。 ・学びの場の確保の観点から複数キャンパス制という方法もあるが、<u>部活動については近くの学校の方が連携しやすい。</u> ・複数キャンパス制ありきではなく、<u>まずは東西2校の「実践」HSをどこに設置するかということを考えるべき。</u>	4つの工業科単独校とその他の学校の工業科を対象に再構築し、「実践」HSを県の東部と西部に各1校設置する。 「工業科教育の魅力化・特色化」、「地域の担い手育成・確保」等の観点から、複数キャンパス制の導入について検討する。

(3) 商業科（富山商業高校、高岡商業高校）

	論点	関係者からいただいた主なご意見	検討の方向性(案)
教育内容	○社会の変化や生徒のニーズの多様化への対応	・商業科卒業生の75%が進学していることをどう捉えるかだが、現在のカリキュラムで十分なのか。 ・商業科では、以前のような関連就職にこだわった指導ではなく、<u>資格を活かした大学進学など幅広い進路選択ができるようにしている。</u> ・商業科では、デザイン思考、観光ビジネスなど常に新しい視点を取り入れて教育課程を編成してきた。 ・企業側としても、民間企業と連携した取組みをさらに進めていくことで、高校生の時から社会に出たときに役立つコミュニケーション力を育んでくれることはありがたい。 ・簿記などのスキルはA Iに置き換わっていくことが予測される。<u>変わらないのは、ユーザーが困っていることに目を向け課題を解決するという考え方。</u> ・これからは、A Iが出した結果を活用できる人材の育成が必要。 ・商業科の科目は非常に多いため、普通科の内容を加えるよりも商業科目の学習を究める方がよい。 ・<u>デジタル人材が不足しており、単なるプログラミングなどではなく広い視点でのデジタル人材育成が必要。</u>	社会の変化やニーズに柔軟に対応できるよう、グローバルな視点やデジタル活用スキルの育成など新たな学習内容を取り入れる。
将来像	○商業高校の魅力化 ○学校規模の維持と部活動の活性化	・普通科併設の商業科はなくなったとしても、商業科を中核とした学校は大事。 ・<u>両商業高校の伝統と文化は人がつないできた結果</u>であり、両商業高校の学校名は変えない方がよい。 ・他学科を併設するのであれば、普通科よりも職業科の方が親和性があるように感じる。 ・商業科と工業科の学びは、専門的であり、それぞれを別々の学校として位置付ける方がよい。 ・<u>その他の学科と組み合わせるのであれば、スポーツや情報は商業高校と親和性が高い。</u> ・商業科単独校は部活動でも伝統がある。指導者の確保などは学習内容とは別で大事にしていくべき。 ・今年度、欠員が出たのは、部活動を理由とした県外流出により推薦選抜の志願者が少なかったことが影響したと考えられる。 ・これまで両商業高校が県内の部活動を牽引してきた事実がある。<u>生徒数が減少する中、今後、特に団体競技は維持していくことが難しくなるが、商業高校が頑張れば、県外流出も防ぐことができる。</u>	これまでの商業科単独校で行われてきた教育を踏まえつつ、「学校の魅力化・特色化」、「学校規模の維持と部活動の活性化」等の観点から、その他の学科を併設した学校として再構築することを検討する。

(4) 農業科、工業科、商業科の定員設定

論点	関係者からいただいたご意見	検討の方向性(案)
○募集定員全体に対する各学科の今後の募集定員数・割合	・ <u>どの程度の定員割合が適切かは明確に示すのは難しい。</u> ・ 職業系専門学科は、定員の割合だけでなく人数も必要。 ・ <u>社会環境の変化が激しく、新しい技術や考え方が求められており、時代に対応した人材が必要になっていく。</u> ・ <u>職業系専門学科に進学する生徒が増えれば、富山に残ってくれる人も増えることになると思う。</u> ・ 職業系専門学科の卒業生は、県外の大学へ進学しても富山に帰ってくる生徒が多いように感じる。 ・ <u>定員を多くしても、生徒が入ってくれるかという問題があるので、「入りたい」学校にしないでほしい。</u> ・ <u>クラス単位での定員調整は困難。コース制など柔軟な対応が必要。</u>	今後の各学科の定員設定については、学校の再構築の状況を踏まえながら、現在の定員数と定員割合をベースに、本県の産業・就業構造や生徒の志願状況などを勘案しながら決定していく。

《参考》職業系専門学科に関する意見聴取メンバー

○農業科

河上めぐみ	(有)土遊野 代表取締役
下村 豪徳	(株)笑農和 代表取締役
友田 拓造	(株)Yokubari farm 代表取締役
豊川 和人	富山県農業協同組合中央会農村対策部 部長
福島 学	全国農業協同組合連合会富山県本部畜産部畜産課 専任課長
橋本 喜洋	富山県農業法人会 会長

県関係課（農林水産部農業経営課、農林水産部農業技術課）
県教育長・関係学校長（中央農業高等学校）

○工業科

伊東潤一郎	新時代とやまハイスクール構想検討会議 委員（アイティオ(株) 代表取締役社長）
加藤 昭悦	(一社)富山県建設業協会 専務理事
高田 吉弘	(一社)富山県薬業連合会 専務理事
寺島 雅峰	富山経済同友会教育を考える委員会 委員長（(株)寺島コンサルタント 代表取締役）
水口 勝史	(一社)富山県機電工業会 会長（立山科学(株)代表取締役社長）

県関係課（商工労働部商工企画課、土木部建設技術企画課）
県教育長・関係学校長（魚津工業高等学校、富山工業高等学校、高岡工芸高等学校、砺波工業高等学校）

○商業科

杉木 貴文	新時代とやまハイスクール構想検討会議 委員（(株)Engames 代表取締役社長）
土屋 誠	前 富山経済同友会教育問題委員会 委員長（日本海ガス(株) 取締役会長）
栃谷 義隆	富山県商業教育振興会会長（(株)ヤングドライ 代表取締役会長）
能作 千春	新時代とやまハイスクール構想検討会議 委員（(株)能作 代表取締役社長）
山本 公生	商工会連合会 専務理事

県関係課（商工労働部経営支援課、教育委員会保健体育課）
県教育長・関係学校長（富山商業高等学校、高岡商業高等学校）